

行政改革推進会議（第46回）

議 事 録

内閣官房行政改革推進本部事務局

行政改革推進会議（第46回） 議 事 次 第

日 時 令和3年12月9日（木）18:15～18:35

場 所 官邸4階大会議室

1. 開 会

2. 議 事

令和3年秋の年次公開検証等の取りまとめ

3. 議長挨拶

4. 閉 会

○牧島行政改革担当大臣 それでは、ただいまから、第46回「行政改革推進会議」を開会いたします。本日はお忙しい中、お集まりいただき、誠にありがとうございます。

本日の行政改革推進会議では、資料はお手元のタブレットに格納しておりますとおり、資料1として「令和3年秋の年次公開検証の取りまとめ」、資料2として「行政改革推進会議による指摘（通告）」、資料3として「基金の再点検」、資料4として「特別会計に関する検討の結果」を取りまとめ、そのポイントは参考資料のとおりでございます。

それでは、議事に入ります。

お手元でございます「令和3年秋のレビューにおける取りまとめのポイント」を御覧ください。

先月8日、9日の2日間、令和3年秋の年次公開検証（秋のレビュー）を実施し、新型コロナウイルス感染症の拡大を経験する中であって、行政組織の構造的な諸課題をどう克服するか、旧来型の組織や社会をどう再構築していくかといった、より踏み込んだ論点を議題に据え、議論を行いました。

具体的には「感染再拡大に備えたコロナ対策の検証」と「デジタル社会の実現」を2つの大きな柱として、これまでの取組の検証と課題の抽出、今後の出口の方向性について議論し、また、昨年の秋のレビューで取り上げたテーマのうち、子供の貧困問題や教育現場のオンライン化の推進といった重要な政策課題について、秋のレビュープロセスにおいて初めてのフォローアップのための議論も行いました。

秋のレビューでの議論の結果、国や地方自治体が保有するワクチン接種に係る情報に関し、接種を安全かつ確に行うために、当該情報を国と地方自治体でどのように共有すべきかという課題等について検討すべき、非常時における保健・医療等体制に係る国、都道府県・保健所設置自治体の役割分担やリーダーシップの明確化、病床の稼働率向上に向けた病床の見える化や医療機関間の連携促進を図るべき、困っている子供や保護者にプッシュ型で支援を届けるために、必要なデータの連携・活用のための仕組みについて検討を進めるべき、「まち再生基金」のうち、地域自立・活性化支援事業については、基金事業の廃止も検討すべきなど、それぞれの課題が抽出されました。

本日は、本年の秋のレビューの2つの柱である「感染再拡大に備えたコロナ対策の検証」と「デジタル社会の実現」の2点について、有識者構成員の皆様から御意見を伺いたく存じます。

御発言いただく方は、お手数ですがネームプレートをお立てくださいますよう、また、御発言は、五十音順に、恐縮ですがお一人1分程度でお願いをいたします。

挙げていただいて、ありがとうございます。漆委員、お願いします。

○漆議員 品川女子学院の漆と申します。

委員としてレビューに参加させていただき、コロナ、デジタルというキーワードについて、教育現場の視点から気づくことを2点申し上げます。

1点目は、コロナ対策で得た知見の活用につきまして、オンライン授業を行い、不登校

生徒が朝から出席できるということがありました。通信制の授業形式をモデルに、定時制や全日制の規制を一部緩和するなど、規制改革によって費用をかけずに学びの個別最適化を実現できることもあると考えました。

2点目は、GIGAスクールを効果的に推進するために、3つの優先順位があることに気づきました。

1、教員の研修、2、つながる環境、3、デバイス。整備の順番が変わりますと費用対効果が減じることは、こういうことに限りませんので、ロードマップの策定の必要性を強く感じました。

最後に、以前「隣の課とかぶる提案は駄目なのです」と言われたことがあるのですが、縦割りを廃することで無駄を減らせることが現場の目から見えることがあります。また、予算を執行しないと減るという危機感を感じる事が少なくありません。教育政策も指標や根拠を明確に、効果検証の回転を早めて、メリハリの「ハリ」へのアクセント付けや、やめることにもインセンティブを設定して、限られた予算をより効果の高いところに振り分けられるような仕組み作りに資するよう、私も委員として力を尽くしてまいりたいと思っております。

以上です。

○牧島行政改革担当大臣 ありがとうございます。

続いて、島田委員、お願いいたします。

○島田議員 ありがとうございます。島田由香と申します。

このたび大変貴重な機会をいただきまして、どうもありがとうございました。

私は6番目のテーマの「教育現場のオンライン化の推進」というところに携わらせていただきました。

自分自身の専門は、働き方であったり、人材育成、地域活性、そしてウェルビーイングという4つの柱が自分の生きる道として、日々楽しく生きております。

その観点から今回のテーマについては、やはり先生の働き方というところが、このデジタル、GIGAスクールの進化によって、もっともっとスペースが、要は余裕ですね、先生たちにあるようになっていくといいなと非常に感じました。

今、漆先生からも、先生の研修というのがすごく大事だとありましたけれども、先生方が研修を受けられるといった余裕が持てるように、デジタルがますます進んでいくとよいと考えています。しかしながらデジタル化の一番の目的はやはりウェルビーイングだと思っています。先生のウェルビーイングが高くなっていくこと、これが非常に大事なことだと感じました。

コロナというのは、私たちの生活をととてもよい意味で大きく変えています。ぜひとも、このコロナの経験とデジタル化を教育現場のみならず行政の皆さんもそうですし、国家・地方公務員の皆さんの現場でもこれらが進んでいくといいなと、このところに私も関わらせていただければと思っております。どうもありがとうございました。

○牧島行政改革担当大臣 ありがとうございます。

鈴木委員、お願いします。

○鈴木議員 学習院大の鈴木でございます。

私は、コロナ禍の医療提供体制の拡充というセッションと、子供の貧困対策というところの取りまとめを担当いたしました。

諸提言が並んでおりますけれども、一言でまとめますと、現場をとにかく見て、現場の声を聞いて政策を作ってくださいというところに尽きると思います。

医療とか福祉の現場というのは、どうしても実際に政策をやるのは基礎自治体とか、あるいは基礎自治体よりももっと先の民間という部分でございます。今はそういう生活支援みたいところに国がいろいろ政策を打っているわけでございますけれども、従来のやり方ですと、都道府県を通して基礎自治体、民間となるわけですけれども、やはりコロナみたいな緊急事態になりますと、そこがうまくつながっていないということが結構ありまして、都道府県も決して現場をよく分かっているというわけではありませんので、そういう意味では、やはり最前線の現場の声を聞いて、政策をフィードバックして作るということがいろいろ大事で、このセッションでも先端的な基礎自治体はいろいろ呼びまして、その声を聞いていただいて、現場のそごとか、使い勝手のいい政策をやってくださいということをいろいろ提言いたしました。

これはよく考えたら、デジタルというのは結構キーワードなわけですけれども、デジタルの時代というのは、基礎自治体とか現場の民間と国がダイレクトにつながれると。一対多でつながれるというのは非常に大きなポイントですので、そういう意味で、医療とか福祉だけではなくて、いろいろな政策が、デジタルの時代は、やり方はいろいろ変えていく、都道府県を通してとかいうのではなくて、現場の声をダイレクトに国が政策を聞いてやるなどということも、これから進んでいったらいいなということを考えていた次第でございます。

以上でございます。

○牧島行政改革担当大臣 ありがとうございます。

高島委員、お願いします。

○高島議員 福岡市長の高島でございます。

まずは御礼です。ワクチン接種がもうこれだけ喫緊に迫っている中で、引っ越した方に3回目の接種券が届かないという問題、これについては、福岡市も年間で8万人の方が転入してくるので、全てマイナンバー利用の同意を取るというのはすごく時間がかかるということ、先月16日の臨調でもお話をさせていただいたのですが、その場で岸田総理から指示がありまして、そして、そのわずか10日後に、牧島大臣から法的整理がなされたという発表がありました。自治体としては、これは本当に助かりました。この岸田総理のスピード感に対して、自治体を代表して感謝を申し上げたいと存じます。

このワクチン接種における問題というのは、これも本当に一つの分かりやすい課題だっ

たと思うのです。今、データ連携できないことによっていろいろなことができない。ですから、省庁の間、それから自治体間のデータ連携ができないという問題、それから、国と地方の役割といった大きなテーマについては、今後デジタル臨調で話し合うとしていただきました。

今後、こうしたデジタル改革、規制改革とも併せて、この行政改革が進むように、この会議でも活発な議論をしていきたいと思っておりますので、引き続き総理の力強いリーダーシップに期待するものであります。よろしくお願いいたします。

○牧島行政改革担当大臣 ありがとうございます。

武田委員、お願いします。

○武田議員 ありがとうございます。

意見を2点申し上げます。

第1に、コロナ危機への対応では、医療資源が効率的に使われてこなかったことが浮き彫りになりました。まず急がれるのは、医療機関の連携と機能分担だと思います。また、医療機関の空き病床や経営状況などのデータの見える化、そしてガバナンス体制の明確化を進めるべきと考えます。

医療体制を一例で申し上げましたが、重要なことは、今回のコロナ禍での一連の政策や体制をどこかで一度見直し、検証し、危機から得られた教訓を必ず次に生かすことが大切と存じます。

第2に、デジタル社会の実現についてですが、データを取得することが目的ではなく、課題を見える化し、課題を解決すること、こちらが本質であることを国民と現場と共有する必要があると思います。

例えば子供の貧困、シングルペアレンツの問題は、助けが必要な子供たちにプッシュ型で支援が届くようにすることがゴールであり、データ連携ができれば、こうした課題が解決するというのを伝え、共感を得ていくことが大切だと思います。

他の社会課題の解決についても、ゴールを明確にした上で、達成に必要なデータを見極め、標準化する。同時に、政府や自治体の内部業務までデジタル化に対応できるようにする。そして、国と地方とでデータ連携を進めることが大切と考えます。

以上です。ありがとうございました。

○牧島行政改革担当大臣 ありがとうございます。

土居委員、お願いいたします。

○土居議員 まずは岸田内閣の下でも、行政改革推進会議の年次公開検証が開催されたということで、大変意義深いことだと高く評価しております。

これだけ継続して毎年行われるということになりましたので、行政改革推進会議の年次検証というのは、俳句の秋の季語になってもいいのではないかなというようなぐらゐの秋の年中行事というようなことで、予算が閣議決定される前に予算の質を向上する、そういう議論ができるよい機会であろうと、私は大変重要だと思っております。

特に今回、デジタル、いろいろな形で取り上げられました。先ほどの各委員からの御発言にもありました。特にデジタル化を進めることとともに、行政職員、行政組織の改革もこれまた必要で、まさに行政改革の名に値する新しい働き方、新しい組織の在り方を、これから来年にかけてぜひ御議論いただきたいなど私自身思っております。

以上です。

○牧島行政改革担当大臣 ありがとうございます。

有識者構成員の皆様から大変貴重な御意見をいただきました。

次に、本日御出席いただいております関係省庁の担当大臣より御発言をお願いいたします。それでは、末松文部科学大臣、お願いします。

○末松文部科学大臣 簡潔に申し上げます。

行政改革担当大臣より御発言のありました、子供を見守るためのデータ連携につきましては、個人情報保護、現場の負担に留意をしつつ、1つ目は、先進的な取組を行っている自治体の情報収集や好事例の横展開、そして、活用するデータの考え方の検討を進めることにしたいと思っております。

2つ目は、デジタル庁、内閣府、厚生労働省と連携しながら、各自治体の保有する教育、福祉等のデータを活用して、支援が必要な子供や家庭に必要な支援を届ける仕組みの検討を行うこと。当たり前のことなわけですが、こうした取組を進めているところでありまして、今後も関係機関と連携してまいりたいと思っております。

あと、子供の貧困、シングルペアレンツ問題とか教育現場のオンライン化の推進につきましても、御指摘を踏まえて適切に対応いたしてまいりたいと思っております。

以上でございます。

○牧島行政改革担当大臣 ありがとうございます。

後藤厚生労働大臣、お願いします。

○後藤厚生労働大臣 有識者の皆様より様々な観点から御指摘をいただきまして感謝申し上げます。いただいた御指摘を踏まえまして、厚生労働省としても、しっかりと取り組んでまいりたいと思っております。

ワクチン接種に関しましては、転居した方の接種記録を転出先自治体が自動で入手できるように、デジタル庁と連携することにいたしております。

保険医療等体制に関しましては、医療機関間の連携促進を図るために、G-MISを活用して、医療機関別のコロナ病床の稼働状況の見える化を行うことといたしております。

また、子供の貧困、シングルペアレンツ問題に関しては、ワンストップ化、プッシュ型の支援を加速するために、ICTの活用等について、関係省庁と連携して検討を進めてまいりたいと思っております。

以上でございます。

○牧島行政改革担当大臣 ありがとうございます。

今回の秋のレビューで抽出した課題を、いかに次の具体的な政策に結びつけていくかが

重要であり、引き続き関係省庁とともにスピード感を持って取組を進めてまいりたいと思います。

また、デジタル社会の実現に向けて、より効果的な政策形成となるべく、EBPMにもしっかり取り組んでいきたいと考えております。

それでは、金子総務大臣から御発言をお願いいたします。

○金子総務大臣 今回のレビューでは、有識者、構成員の皆様方、また歳出改革ワーキンググループの皆様から様々な課題を御提示いただき、ありがとうございました。

政策の点検を行い、その結果を次の政策に反映することは非常に重要であります。今後のデジタル社会においては、政策立案におけるデータの利活用や、状況に応じた政策の見直しのスピード感がこれまで以上に求められると考えております。

政策評価や政策の基礎となる統計の作成、利活用を担う総務省といたしましては、今回御提示いただいた諸課題も参考にしつつ、政府全体の政策形成のさらなる改善に向けて取り組んでまいります。

以上であります。

○牧島行政改革担当大臣 ありがとうございました。

それでは、鈴木財務大臣からお願いいたします。

○鈴木財務大臣 今回の取りまとめを含め、秋の年次公開検証等におきまして、有識者の皆様方から予算の重点化、効率化を進める上で非常に有益な御指摘をいただいたと、そのように考えております。

財務省といたしましても、引き続き行政改革推進本部と連携をいたしまして、今回の指摘事項について、各府省とともに検討を行い、その結果を予算にしっかりと反映させて、予算の重点化、効率化を進めていきたいと考えております。

○牧島行政改革担当大臣 ありがとうございました。

最後に岸田総理から締めくくりの御挨拶をいただきたいと思いますが、プレスが入室いたしますので、少々お待ちください。

(報道関係者入室)

○牧島行政改革担当大臣 それでは、岸田総理より締めくくりの御挨拶をいただきたいと思います。総理、よろしくをお願いいたします。

○岸田内閣総理大臣 本日は、秋の行政事業レビューで検討が行われました感染再拡大に備えた新型コロナ対策の検証と、デジタル社会の実現について、委員の皆様方から御議論をいただきました。

高島市長からも発言がありましたが、秋のレビューでの提言を受け、3回目のワクチン接種の円滑な実施に向け、引越しに伴う接種記録の照会については、改修したVRS（ワクチン接種記録システム）の運用を来週14日に開始いたします。このほか、ワクチン接種に係る情報の共有について、デジタル庁を中心に厚生労働省等と連携して進めてまいります。

また、新型コロナ対応について、非常時の保健・医療体制に係る関係機関の役割分担や

リーダーシップの在り方を明確にすべきとの御提言がありました。今後、感染症危機などの健康危機に迅速・的確に対応するため、司令塔機能の強化を含めた抜本的体制強化策を来年6月までに取りまとめるに当たって、いただいた御提言も反映したいと考えております。

さらに、困難を抱える子供たちに対するプッシュ型支援の実現を加速化するため、データ連携を実現すべく、デジタル庁、内閣府、文部科学省、そして厚生労働省の副大臣級のプロジェクトチームで、来年6月までに具体的な方向性を示してもらいます。

基金については、今般の秋のレビューで指摘を受けた、まち再生基金の地域自立・活性化支援事業を廃止することといたします。

行政改革推進会議では、これまで秋の行政事業レビューを中心に議論を行ってまいりましたが、デジタル社会の実現に向けて、データを活用してスピーディーに政策サイクルを回し、柔軟に政策の見直しを行う新しい政策形成・評価の在り方について、当会議の下にワーキンググループをつくり、しっかり議論を進めてもらいたいと考えております。委員の皆様には引き続き御協力をよろしくお願い申し上げます。

以上です。

○牧島行政改革担当大臣 ありがとうございます。

プレスの方は御退出ください。

(報道関係者退室)

○牧島行政改革担当大臣 以上をもちまして、本日の会議は終了いたします。御協力、誠にありがとうございました。